

# 平成31年度（令和元年度）文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

## ひまわり学級

教科	指導上の課題の分析	指導のめあて	授業改善の視点	評価（成果と課題）
国語・算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個の実態に差が大きく、課題設定が異なる。</li> <li>○45分間集中して学習することが難しい児童もいる。</li> <li>○一度覚えたことも時間が経つと忘れていくことがあるので、定着するように繰り返し学習していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別指導計画を活用し、個別の課題達成を目指す。</li> <li>○45分間、集中力が持続できるようにする。（児童の実態に応じて適宜休息を入れる）</li> <li>○復習を効果的に取り入れながら、知識の定着が図れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スモールステップで目標到達を見極めつつ、次の課題の設定をし、指導を進めていく。また、個々の実態に合わせて、教科書の内容を精選したり、課題内容・分量を工夫したりする。</li> <li>○一人一台のタブレット端末や、電子黒板などのICT機器を、児童の実態に応じて効果的に活用する。</li> <li>○保護者の願いに応え、年間を通して授業時数を確保し、集中力の持続や知識の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学期毎に作成した個別指導計画を見直し、支援の工夫を継続して行うことができた。</li> <li>○課題に応じたプリントやタブレット端末を使い、繰り返し学習したことによって知識の定着を図ることができた。また、場面に応じて電子黒板を活用し、児童の興味関心を高めることができた。</li> <li>○国語・算数の授業時数を十分に確保し、知識の定着を目指して学習を進めることができた。</li> </ul>

<p>体 育</p>	<p>○個の実態に差が大きい。 ○体を動かすことが好きな児童が多い。 ○ルールを守ることや勝敗を受け入れることが困難な児童がいる。 ○跳び箱運動や固定遊具を使った運動、水泳学習等に苦手意識がある児童がいる。</p>	<p>○みんなと一緒に活動する楽しさを体感し、十分に体を動かす。 ○走る・跳ぶ、手足の協調など、幅広い運動感覚を身に付けさせる。 ○ルールの遵守、勝敗を受け入れる姿勢を身に付けさせる。 ○苦手意識のある運動にも進んで取り組む態度を育てる。</p>	<p>○ねらいに応じて、学級全体、実態別グループ等、様々な学習形態を設定する。 ○初めに学習の流れを伝え、児童自身が見通しをもちながら、運動ができるようにする。 ○チームで協力する運動を多く取り入れ、勝敗を経験させる。 ○ルールを設定し、遵守して活動ができるように支援する。</p>	<p>○児童の実態に応じた学習内容を実施することができた。 ○児童が活動の見通しをもって取り組むことができた。 ○ルールや場の設定を臨機応変に工夫し、実践したことによって、より多くの児童が意欲的に授業に参加することができた。 ○運動に応じた支援方法や、実態別グループの検討について、さらに見直しを図っていく。</p>
<p>音 楽 ・ 図 工</p>	<p><b>【音楽】</b> ○友達と一緒に、楽しみながら歌ったり、演奏したりできる児童が多いが、個の実態には差が大きい。 <b>【図工】</b> ○楽しみながら意欲的に取り組む児童が多い。対象物をよく見て描くことや、全体指示を聞きながら、手順を理解して取り組むことが難しい児童がいる。</p>	<p>○表現活動や造形活動に意欲的に取り組めるようにする。 ○楽器や道具の適切な扱い方を知り、音を出したり安全に使ったりする。 ○友達とリズムを合わせて歌ったり、演奏したりする。 ○友達の歌や演奏を聴いたり、友達の作品を鑑賞したりする中で、自分なりの感想をもつことができる。</p>	<p>○手順を視覚的に示したり、個別に声をかけたりして、基礎的な技能や学習態度を習得できるようにする。 ○自信をもって活動に取り組めるよう、肯定的な声かけを意識する。 ○個の実態に合わせたねらいを教師側が設定し、共通理解のもと指導を進める。 ○常に、聴く姿勢、望ましい態度を意識できるよう指導する。</p>	<p>○手順や方法を視覚的に示すことで、児童が自分の力で課題を解決しようとする姿を引き出すことができた。 ○肯定的な声かけをすることで、児童が楽しく自信をもって参加することができた。 ○交流及び共同学習に参加し、効果的に学習を進めることができた。 ○授業中の姿勢や、集中して取り組む態度について、さらに指導・支援を進めていく。</p>

<p>生活単元学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個の実態に応じた様々な課題があるため、学習内容を精選する。</li> <li>○自然や動植物とかかわる経験が少ない傾向にある。</li> <li>○手指の巧緻性を高めるための活動を多く取り入れる。</li> <li>○自分の思いを上手に伝えることが難しい児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な体験を通して、生活の幅を広げ、広い視野や社会に適応する力を育てる。</li> <li>○自然や動植物を大切にしようとする態度を育む。</li> <li>○スウェーデン刺繍を主とした手指活動を通して、手指の巧緻性や集中力を高める。</li> <li>○「見る」「聞く」「話す」力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○6学年を見通しながら、個の実態に応じたねらいを明確にする。</li> <li>○遠足や宿泊学習などを通して、校外における自然体験の場を確保する。</li> <li>○担任・講師・支援員が連携して、個別の指導にあたり、手指の巧緻性や集中力の向上を図る。</li> <li>○「見る」「聞く」「話す」を中心としたコミュニケーション活動の授業を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個のねらいに応じた学習課題を設定し、実施することができた。</li> <li>○遠足や宿泊学習では、自然や動植物に親しみ、児童が協力して活動することができた。</li> <li>○買い物の経験や、手指の巧緻性の向上など、実生活に即した体験型の学習を設定し、進めることができた。</li> <li>○コミュニケーション(具体的な受け答え)に特化した活動を設定し、効果的に学習を進めることができた。</li> </ul>
<p>生活・総合</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交流学級との「なかよし会」を実施し、楽しんで参加できる児童が多い。</li> <li>○学年課題学習として、該当学年の学習内容から精選して指導しているが、理解力に差が大きい学年もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どの子どもも仲良くかわり、お互いのことをよりよく知ることができるようにする。</li> <li>○社会科・理科・生活科などを中心に、生活上必要な知識を増やしたり、技能を高めたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生とのなかよし会では、ひまわり学級の児童が司会・進行を務め、自分の役割に責任をもって取り組めるようにする。</li> <li>○学年の実態、個の実態に合わせた内容を工夫し、授業時数を確保する。また、学習内容を精選し、指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1・3・5年生とのなかよし会、2・4・6年生との交流給食を実施し、相互理解を深めることができた。</li> <li>○学習内容によっては、学年をまたいだグループを編成し、学年課題を実施することができた。指導内容をより計画的に進められるようにする。</li> </ul>

